



No.2

2007年 6月1日発行

水辺のひびき



私の加治川写真コンテストより (水田撮影/渡辺 宗咲)

自然観察シリーズ 池沼探検隊② 準庵堤(川東・長峰)

第3回池沼調査から長峰にある「準庵堤」を紹介します。およそ50年前に築造されたものといわれ、農業用の溜池ですが、現在は利用されていないようです。池の大きさは一辺80m程の不整形な三角形ですが、かつてはもともと広くて深く、水質も良く、周辺住民の話では、子どもが泳ぐことが出来たとのことです。今では水は淀み、泥が堆積し、人の立ち入りもありません。



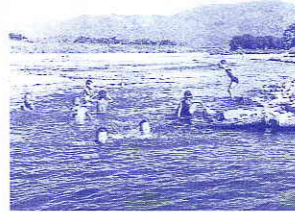
若干の水生生物の確認が出来ました。植物ではアシ、スキが周辺に繁茂していて、淀んではいますがその水質浄化に役に立っているものと思われれます。周辺にはハンターの葉きょうの痕跡が確認できることから、鴨の飛来池ともなっているようです。

あなたの一枚をご応募下さい。

私の加治川 写真募集

加治川は、あなたにとってどんな風景ですか？

加治川と暮らし、加治川堤の桜、加治川と治水、加治川の文化・風土、四季の加治川など、特に往年の貴重な「加治川堤の桜」の写真など、眠っているものもありましたら、ぜひご応募下さい。



■詳しくは、<http://www.van-rai.net/kajikawa/>

■応募締め切り 平成19年9月30日

【募集要項】

■撮影の年代は問いません。
■プリントまたはデータ(CD)で投稿して下さい。
応募された写真から、選考の上、秋に行われる写真展に展示させていただきます。※著作権は主催者に帰属されます。

【応募方法】

お名前、ご住所、電話番号、撮影日、撮影場所、作品タイトル・コメントをわかる範囲でご記入の上、作品と一緒に下記までご持参、またはお送り下さい。

【写真の受付・お問い合わせ】

「私の加治川」実行委員会
〒957-0053 新潟県新発田市中心町3-13-3
新発田地域交流センター内
TEL.0254-22-1254 (受付時間/9:00~17:00)

宝物

みくつけた

「ほっほっほたるこい」

都市化や川のU字溝整備が進み、生息地が減ったせいもあり、近年は「ホタルを見たことがない」という人も増えていきます。でも、実はいるところにはいるのです。

夏の風物詩、減りつつあるホタルを守ろうと、地域のかたがたりや団体が保護活動に乗り出し、少しずつではあります。ホタルは増えてきました。

近年、人気のある観察スポットは、加治川地区住田と川東地区田貝。住田は、大天城公園の近くに、散策しながらホタルを観賞できる遊歩道もできています。田貝は目印のない田んぼ道での観察となりますので、毎年、ホタルの乱舞の時期に合わせて、「夕暮れの散歩ツアー」が開催されます。

そのほか、米倉、赤谷などでも見ることが出来ます。意外なところでは舟入町でも、わずかではあります。昨年飛んでいたそうです。今年は皆さんもホタル探しに出かけてみませんか。おすすめのスポットがあれば、ぜひ教えてください。

新発田市六日町で偶然発見された絶滅危惧種のイバラトミヨ。現在は豊浦地区の太齋・久保でも確認されており、昨年からの地元小学校でも総合学習などで取り上げていただいています。



学びの扉

イバラトミヨの調査

4月28日に久保地区で実施した調査には、荒橋、松浦小学校から先生や児童保護者など約30人が参加しました。気温7度という寒さの中の調査でしたが、ツチガエルやきれいな水に棲むヤリタナゴ、オスの背中にメスが卵を産みオスが育てるコオイムシなどの生物が確認されました。

しかし、残念ながらイバラトミヨは昨年よりもずっと減っており、今回2調査地点合計でわずか12匹。これ以上減らないよう、加治川ネットでは、これからも定期的に生息調査をし、子どもたちの力も借りながら、保護活動を続けていきます。



NPO法人 加治川ネット21

会員募集

年会費: 個人 2,000円 / 法人 5,000円

事務所所在地: 新発田市小戸886-1

電話: (0254) 31-4111

FAX: (0254) 31-4088

Mail: kjn21@ml.shibata.ne.jp

ホームページアドレス:

<http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/>

会費振込先:

郵便局 00500-5-35812

編集後記

4月中旬、加治川を愛する会主催の加治川クリーン&ウォークが行われました。当日は、台風並みの突風が続く悪条件。飛ばされないように歩きながらのごみ回収は、かなり大変でした。

毎年、協賛団体の一員としてこの行事に参加していますが、今年はいつものごみの量は減ったものの、それでも集められたごみは4トントラック2台分。なかなかない空き缶、空き瓶のポイ捨てやタイヤの不法投棄。不思議だったのは、分解されて捨てられていたビデオデッキです。車で堤防まで運ぶ手間と経費と罪悪感(？)を考えると、指定袋に入れてごみステーションに出すほうが、ずっと簡単に経済的だと思いますが…。

御意見、御感想などありましたら、事務局までお知らせください。

18年度まちづくり活動支援事業に参加

去る3月3日(土)、午後1時から「きやり館」で開催された「新発田市まちづくり活動支援事業公開審査会」に、当会も参加しました。

この事業は、新発田市がまちづくり活動を行っている団体に側面から支援助けようとして3年前から始めたもので、公開審査により選ばれた上位5団体に、支援金が贈られます。

当会の参加は初回から連続3回目。今回は12団体が参加しており、くじであらかじめ決められた順に、プレゼンテーションが始まりました。わずか5分間の発表の中で、活動の素晴らしさや苦勞を来場者や審査員に訴えていかなければなりません。

当会からは、藤田理事が12団体の最後に発表。テーマを「環境はビジネス」とし、「食料供給都市を目指す新発田市にとって、地域を取り巻く農村環境が健全であれば『食』への安全が担保できる。良い環境でしか生息できない生き物がたくさんいる農地は、最高の安全のシンボルとして評価される。当会は、魚類などのいきもの調査を通してまちづくりを目指す」と発表しました。



上位入賞を果たすことができ、市からめでたく支援金をいただきました。当会がこのように高い評価を得られたのは地道な努力とその継続性、さらに地域と一体となった活動があるからではないでしょうか。「よし、今年も行くぞ」と思っていたら、支援金を3回ももらった団体は次の年は申請できないのだそうです。「残念！」

レポート2

加治川の桜育樹管理会 開催される

加治川ネットの恒例行事となっている加治川の桜育樹管理会を、今年3月25日に行いました。当日はあいにくの雨。ただ、精進の悪いやつは」などとぶつぶつ独り言を言い、仕方なく合羽を着込み、長靴を履いて加治川土手へ。樹木管理のプロである田中理事の指導を受けながら

剪定作業に取り掛かりました。最初はおっかなびっくり、のこぎりを使っていたのが、いつのまにか本気モードに突入し、枯れた枝をバツバツサ。少し遅れて加治川を愛する会の皆さんも駆けつけ、「この枝枯れてるすけ切っていろかね」「うん、枯れてるもの、根元から切ればいいさ。」などという具合にわいわい言いながら、楽しい育樹



NET21ニュース

ジャスコ村上店でのイエローレシートキャンペーン(※参照)で、このほど当会が活動資料としてバケツとマジックを頂きました。ありがとうございました。これからの活動に使わせていただきます。

※毎月11日に買い物をする発行される黄色のレシートを、応援したい団体の応募箱に入れるとその金額の1%が団体に還元される活動。イオン新発田店でも実施しています。

地域を愛する…… 「きれいな新発田川の復活を目指して」 ……新発田川を愛する会



新発田川に「あやめ」を咲かせようという活動をしています。そのひとつとして、寺町福勝寺裏の川に粗朶(木の枝を切って束ねたもの)の護岸を設置しました。そこに「あやめ」の苗を植えるためです。また、清水園横の川沿いにプランターで育てたあやめを、開花時に合わせ設置する活動も行っています。

皆さんがあやめを見て、「わぁーきれいだねえー」と思ってくれば、川の環境もよくなると思います。一日も早く魚の棲める川にしたいものです。会ができて4年目。現在7名の会員で頑張っています。

ホームページ
http://www.geocities.jp/shibatagawa/

環境豆知識

外来生物法

外来生物とは、その地域にもともと生息していたものではなく、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことで、現在日本の野外に生息している外来生物の数は2,000種を超えるといわれています。

外来生物が引き起こす悪影響としては、次の3つが上げられます。

- ① その土地にいた在来生物を食べたり、交雑したりして元の生物の環境を変えてしまう。
 - ② 毒を持ったり咬み付いたりして、人に危害を及ぼす。
 - ③ 作物を荒らし、農業被害をおこす。
- 「外来生物法」は2005年6月1日に施行された法律で、正式には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」といいます。外来生物の中でも自然環境に大きな影響を及ぼすものを「特定外来生物」として指定し、その飼育、栽培、保管、運搬、販売、譲渡、輸入、放外することを原則禁止しています。

田んぼのカエルが危ない!!

1 ツボカビ症について

平成18年12月に、飼育されていたカエルに日本初のカエルカビ症が確認されました。ツボカビとは、両生類(カエル、イモリ、サンショウウオなど)に感染し、高い致死率90%以上をもたらす真菌(カビ)のことです。

このツボカビ症は、非常に感染力が強く、北米中南米、オーストラリアなどで、劇的な両生類の減少や絶滅を引き起こしてきました。現在、両生類は地球的な規模で減少傾向にあります。その主な原因のひとつと考えられています。もし、野外にツボカビがはびこれば、加治川流域に生息しているトノサマガエルやトウホクサンショウウオなどの絶滅危惧種ばかりでなく、アカガエルやアマガエルの生存さえも心配される恐ろしい病気です。

2 どうしてツボカビ症が世界中に広まったの?

アフリカに生息するアフリカツメガエルが元々の宿主です。ですから、アフリカツメガエルは感染しても症状がなく、ペットなどとして世界中に輸出され、伝播したようです。諸外国では、感染したカエルや飼育水が野外に捨てられ、広まったと考えられます。また、ツボカビは寄生していても7週間も生き続けると言われ、一旦、野外にはびこれば、根絶は不可能です。

3 ツボカビ症の症状は? あやしいカエルがいたらどうすればよいの?

食欲不振、皮膚のたれ、鈍い動きなどの特徴があります。飼育しているカエルの様子がおかしかったら、近くの獣医師(動物病院)に相談するとよいでしょう。絶対に野外に放したり、飼育していた水や機材を捨てないでください。

【相談窓口】 詳しい情報が紹介されています。麻布大学 <http://www.azabu-u.ac.jp/>

子どもたちに大人気
加治川流域生き物展示

3月23日から3月25日、イオン新発田店で行われた加治川ネット活動紹介のコーナー。これは同店イエローレシートキャンペーンに参加している団体を紹介するもので、今回も小さな生き物たちは子どもたちに大人気でした。

ここに掲載した行事は予定です。変更される場合もありますので、参加の場合はネットホームページをご覧ください。

体験すれば、もっと地域が好きになる!
イベントや活動に、参加してみませんか?

〈申し込み・お問い合わせは〉
加治川ネット21事務局
電話 (0254)31-4111 FAX (0254)31-4088
E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

参加しませんか?
イベントガイド

ぼくらは加治川探検隊

と き: 7月29日(日)午前9時から午後2時
場 所: 新発田市岡田地内加治川(通称:天然プール)付近
内 容: 川にすむ生き物や生えている植物を調べ、水辺の環境について学びます。また、楽しく遊びながら川との付き合い方も学びます。だれでも参加可。
参加費: 大人1,000円 子供500円
その他: 雨の場合は会場を変更し、内容も変更となる場合があります。

エコトーン創出事業

と き: 9月23日(日)午前9時から午後4時
場 所: 新発田市太畜地内ファームポンド
内 容: 太畜地内のファームポンドにイバラトミヨなどの水生生物の緊急避難地を造ります。
参加費: 無料
その他: だれでも参加可。ただし、子どもだけの参加は不可。濡れても良い服装で。